

## ◇ 木野雅之 (ヴァイオリン) Masayuki Kino, Violin

桐朋学園を経て、1982年ロンドンのギルドホール音楽院に学び、名匠イブラ・ニーマン教授に師事する。音楽院卒業後、ナタン・ミルシュタイン、ルッジェーロ・リッチ、イヴリー・ギトリス等3人の巨匠に師事し研鑽を積む。

1983年、イタリアにてロドルフォ・リビツァー国際ヴァイオリン・コンクール優勝。84年、ロンドンにてカール・フレッシュ国際ヴァイオリン・コンクール最高位を獲得し、W.H.スミス賞と聴衆賞を受賞。85年、パリにてメニュー・イン国際コンクールでサロン音楽特別賞を受賞。87年には『ロイヤルオーケストラ協会シルバーメダル』を授与され、ロンドン 記念演奏会を行った。88年、ベルリンにてルッジェーロ・リッチ国際マスター・コンクール優勝。90年にはアメリカのパーム・ビーチ招待国際ヴァイオリン・コンクールに優勝。

ソリストとしてロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団、ベルリン交響楽団、ポーランド国立放送交響楽団、モスクワ放送交響楽団、ロンドン・モーツァルト管弦楽団等と共演。また、サンレモ、オールドバラなど国際音楽祭への参加も多く、海外での活躍も盛んに行われている。

名古屋フィルハーモニー交響楽団のコンサート マスターを経て、93年4月より日本フィルハーモニー交響楽団のコンサート マスターに、02年7月よりソロ・コンサート マスターに就任。

多数のCD、DVDがオクタヴィア、サウンド&ミュージッククリエーション他より発売されており、いづれも高い評価を得ている。

世界各地でのマスタークラスを始め、東京音楽大学教授、桐朋学園大学、武蔵野音楽大学講師として後進の指導にあたっている。JASTA(一般社団法人日本弦楽指導者協会)理事。

使用楽器は恩師ルッジェーロ・リッチから譲り受けた1776年製ロレンツォ・ストリオーニ。

《木野雅之オフィシャルサイト》

<http://eknowhowinc.juno.weblife.me/masakino2/index.html>

## ◇ 藤本史子 (ピアノ) Fumiko Fujimoto, Piano

九州女学院高校(現ルーテル学院)を卒業後、国立音楽大学ピアノ科卒業。ピアノを吉川由三子、小池和子、上田晴子、アドリアン・コックスの各氏に師事。

これまでに、幾多の音楽コンクールで入賞し、2008年、国際ピアノ伴奏コンクール優勝。2009年、日本ピアノ歌曲伴奏コンクール優勝。

NHK交響楽団、九州交響楽団をはじめとするプロオーケストラメンバーや、国内外の著名な演奏家、声楽家と全国各地で共演を重ねている。

ヴァイオリニスト木野雅之氏や、コントラバス奏者深澤功氏とのCD、DVDもリリース中。

又、ラズモフスキー四重奏団や東京ベーターヴェンカルテット、KMA等との共演やスコットランドDG地球救援音楽祭、球磨川音楽祭、みおつくし音楽祭、八女おりなす音楽祭等にも出演。

現在、東京と九州を拠点に、様々なジャンルのコンサートを企画、出演しいづれも高い評価を得ている。

《藤本史子オフィシャルサイト》

<http://www.fujimotofumiko.com>

## ◆ プログラム・ノート

### ■ヘンデル:ヴァイオリン・ソナタ第4番 二長調 HWV.371



ヘンデル(1685~1759)は主に劇音楽、オラトリオなどの作品で知られていますが、室内楽の分野でも多くの名作を残しています。作品1に含まれる15のソナタの内、6曲がヴァイオリンのためのもので、中でも傑作として知られているのがこの二長調のソナタです。曲は緩一急一緩一急の4つの楽章から成る「教会ソナタ」の形式で書かれており、優美で伸びやかな旋律が魅了する第1楽章、明るく華やかな第2楽章を経て、第3楽章ではヴァイオリンが哀愁を帯びた美しい旋律を歌い上げ、舞曲風のリズムが躍動する終楽章で曲を締めくくります。

### ■ブラームス:ヴァイオリン・ソナタ第3番 二短調 Op.108



初期の頃にも何曲か作られたといわれるブラームス(1833~1897)のヴァイオリン・ソナタですが、完成された形で残っているのは円熟期に書かれた3曲のみです。第2番と第3番はいずれも1868年の夏、スイスの避暑地トウン湖畔で着手されました。同じ年に書き始められた2つのソナタですが、明るくのびのびとした曲想の第2番に対し、第3番は晩年のブラームスに特徴的な渋く重厚な雰囲気支配されています。書き始めてから2年後、最後のトウン滞在で曲が完成するまでの間、親しい友人たちの相次ぐ訃報に影響されたとも言われています。

### ■ファリャ(クライスラー編):6つのスペイン民謡組曲



1.ムーア人の織物 2.ナナ(子守唄) 3.カンシオン  
4.ボロ 5.アストゥーリアス地方の歌 6.ホタ  
近代スペインを代表する作曲家、ファリャ(1876~1946)のスペイン民謡組曲は、スペイン各地の民謡や舞曲を元に書かれた7つの歌曲から成る組曲です。この組曲を1914年にポーランド出身のヴァイオリニスト、パウル・コハンスキが、ヴァイオリンとピアノのための6つの組曲に編曲しました。現在はこちらのヴァイオリン編曲版の方が演奏される機会が多くなっています。

### ■パガニーニ:カンタービレとワルツ ホ長調 Op.12



ヴァイオリンの名手として知られ、悪魔に魂を売り渡しその超絶技巧手に入れたのではとまで言われたパガニーニ(1782~1840)ですが、実はギターも弾き、ギター伴奏によるヴァイオリン・ソナタなど作品も数多く残しています。1823年に書かれた「カンタービレとワルツ」も元はギター伴奏の曲でした。前半のカンタービレでは美しく伸びやかなメロディがゆったりと歌い上げられ、後半から細かいリズムが刻まれるワルツへと変わっていきます。

### ■ラフマニノフ:ハンガリー舞曲 Op.6-2



モスクワ音楽院を首席で卒業し、20歳となったラフマニノフ(1873~1943)が1893年の夏に書いた「2つのサロン風小品」の内の1曲。モスクワ音楽院時代の同窓生で長く友情を結ぶことになるヴァイオリニスト、ユーリー・コニユスのために作られた作品で、そのエキゾチックなメロディは、モスクワ音楽院卒業制作のために書いた1幕ものの歌劇「アレコ」から旋律を借りています。

### ■ピアソラ:二調のミロンガ



アルゼンチンの伝統音楽であったタンゴを芸術の域にまで高め、タンゴの革命児と呼ばれた作曲家、バンドネオン奏者、アストル・ピアソラ(1921~1992)がヴァイオリニスト、サルヴァトーレ・アッカルドのために書いた作品。ミロンガとはアルゼンチンで生まれた4分の2拍子のダンス音楽で、後にタンゴ音楽に取り込まれました。遅く刻まれるミロンガのリズムの上にヴァイオリンのメランコリックなメロディが情熱的に奏でられます。

### ■リムスキー=コルサコフ(ジンバリスト編): 金鶏の主題による幻想曲



ロシアの作曲家リムスキー=コルサコフ(1844~1908)の遺作となったオペラ「金鶏」を原曲とした演奏会用幻想曲。高度な演奏技術を要求される難曲として知られるこの編曲版を書いたロシア生まれのヴァイオリニスト、エフレム・ジンバリスト(1889~1985)は、サンクトペテルブルグ音楽院でレオポルド・アウアーに師事し、ヨーロッパなどで演奏した後、1911年以降はアメリカに定住し活躍しました。日本にも1922年以來4度に渡り訪れています。ちなみに息子のエフレム・ジンバリスト・Jrは俳優となり、テレビドラマ「サンセット77」などに出演しています。